

富良野看護専門学校 広報誌

看 心 い ら の 第 2 (32) 号

発行日 平成 26 年 7 月 2 日

発行者 富良野看護専門学校

「がんばれ！富良野看護学生 がんばれ！未来の看護師たち」

事務課事務係 難波真美子

昨年 4 月に本校事務課に配属になり、学生と共に過ごして 1 年余りが過ぎました。

3 月に 37 名の卒業生が巣立っていき、4 月 7 日には 30 名の 21 期生が入学してきた、新年度がスタートして早 3 か月が経過しています。1 年生にとっては全てが初めてのことばかりで、親元を離れて一人暮らしをはじめた学生たちは不安やさみしさに心細さを感じ、2 年生は実習や課題や試験勉強に追われ、3 年生になると辛い連続実習や難しい看護師国家試験の受験勉強など、決して楽しい学生生活ばかりではありません。

実習を続けるうちに疲れや悩みが生じてしまい、時には私にも相談をしてくれる学生もいましたが、若者らしい笑顔が何より嬉しいです。

学生を近くで見ていると、看護師への道のりは、簡単なものではないと感じます。同じ看護師をめざす仲間と励まし合い、支え合いながら、全員が看護師国家試験に合格し、夢を叶えて欲しいと願っています。私も少しでも皆さんのサポートができればと思いますので、遠慮なく事務室に来て気楽に声をかけてください。看護師への夢に向かって一生懸命に頑張っている学生たちをいつも応援しています。

がんばれ、富良野看護学生！ がんばれ、未来の看護師たち！

~~~~ 「市内施設見学を終えて」 第 1 学年 ~~~~

6 / 3 ( 火 ) 新入生が公共施設等を訪ね地域理解を深めました。感想文の抜粋を連載します。

はじめに行ったチーズ工房では、中心街とは違い、緑豊かなところにあり、「北の国から」にでてきたような石畳の建物で、中も木を使っていて美しく、北海道らしさがありとてもよかった。(略)館長さんの「ここには 4 回こなくちゃいけない。1 回目は今。2 回目は彼氏と。3 回目は結婚して親子で。4 回目は年を取って夫婦で手をつないで。」がすごくいいと思った。(略)富良野の施設を回り、こんなに多くの人が足を運びたくなる地域で看護を学んでいることがすごくありがたいと感じた。ここまでたくさんの方が一生懸命自分たちの街をよりよくしようとする街ははじめてみた。向上心がすごくあり、それは看護にも大きく関係している。改めてそのようなことも学べた。 紺藤ゆりの

私は生まれたときからずっと富良野で育ってきたので、初めて知ることはあまりないと思っていましたが、実際に施設見学してみると驚きや発見が沢山ありました。(略)演劇工場ですまず驚いたことはトイレの配色です。赤は土、緑は森、間の白は川のイメージ、石畳はごろうさんの家と同じやり方だったり、富良野の要素が沢山詰まった空間に驚きました。(略)最後の最後に全国初の NPO 法人として認められたというのを聞いて最初から最後まで驚きと感動の連続でした。(略)今回の施設見学は、今まで知らなかった富良野市のいいところ、それだけでなく物を大切に作る心など、沢山のものを得ることができた一日でした。貴重な体験をすることができありがとうございました。 田中 佑芽

・・・ SCHEDULE ・・・ 6 / 9 ~ 8 / 23 の行事・動向 (含終了)

6 / 9 (月) ~ 13 1年基礎実習 6 / 16 (月) ~ 27 2年老年実習 (病院)

6 / 30 (月) 3年実習3クール目 (~ 7 / 18)

7 / 4 (金) 上川・宗谷地区看護学校親睦体育大会 (旭川市総合体育館)

7 / 15 (火) 2年旭川医科大学解剖見学 7 / 23 (水) 全学特別講演会

7 / 24 (木) 夏季休業開始 (~ 8 / 20) 7 / 28 (月) 北海へそ祭り参加

8 / 23 (土) 第 21 回富良野看護学校祭

**<特集> ボランティア体験記 「自分の目で見て感じる」 3年 彫谷 結里奈**

私は、Prem Dam (プレムダム) という老人たちが住む施設にボランティアに行きました。ここでのボランティアの仕事は、朝 8 時に施設に入り、汚れた衣服の洗濯、ベッドメイクやトイレ・食事の介助、午前中に行われるレクリエーションの手伝いをしました。

特に重労働ではなかったのですが、慣れないじめじめとした暑さや、街中に生ごみを捨てるので) 独特な臭いがありとても疲れました。その施設にいる老人たちはお互いに隣に座っていても話すことなく、下を向いていたり外をずっと眺めている人が多かったのですが、私が声をかけたり問いかけると言葉を発することはなかったけれど、とても明るく優しい笑顔を見せてくれました。初日に日本人のシスターのお話で「この人たちには身内がいらない人が沢山います。だからこそ一緒にいてあげてください。誰にでもできる小さな思いやり。それは、ニコッとすること。」「痛いほどに愛しなさい。」と聞きました。その時は私には難しいなと思っていましたが、実際に老人たちと関わっていく中で言葉は通じ合わなくても自身から笑顔で声をかけていくことが大切なのではないかと思いました。

ボランティア活動を通じて私が感じたことは、ボランティア活動は災害や貧困などただ弱い立場の人たちを助けに行くというだけの意味合いではなくて、ボランティア活動を通じて現地の人と助け合っていくことで自分と向き合うことができ、成長できる機会になっているのではないかと感じました。これからは積極的にボランティアに参加していきたいと思います。また、今回、自身がやってみたいと思ったことを思い切って行動に起こすことで様々な考えを持つ人に出会えたり、自身の成長につながる新たな体験をすることが出来たりしたので、これからも行動に起こしていく姿勢を大事にしていきたいと思います。

今回、自身の体験記を多くの人に発信する場を提供してくれた先生方に感謝いたします。

< 貴重な体験活動の自主投稿ありがとうございました >

**ささやき S & T ・・・ 学生の 教員の みんなの声**

S : 富良野看護専門学校の学生として 2 度目の夏を迎えました。去年よりも早くラベンダーが咲いています。先日、実習がありクラス全員大変多くの事を学ばせて頂きました。

数年後には看護師として美しい花を咲かせたいと考える毎日です。( 2 年 C . K )

S : 私達は 6 月 9 日から 13 日まで初めての实習に行き、様々なことを学びましたが勉強不足を思い知らされました。大事なことを詳しく勉強しておらずわからないことがあったので、この失敗を受けとめ、次回の実習につなげていきたいと思います。( 1 年遠藤成美 )

T : 只今、実習真っ最中。ドキドキ実習の 1 年生、久々実習の 2 年生、緊張の連続実習の 3 年生。そろそろ、頭も身体も燃え尽きているかな? あと少しで楽しい夏休み。頑張れ!!

( 教員 後藤里枝 )

\* 耳よりヘルシー、あんでな は休みます。

※ 富良野看護専門学校祭 8 / 23 (土) PM 一般開放 皆様多数のご来校をお待ちします!